

お墓を造る時期について



●Answer

沖縄市・コザ山 球陽寺 前住職
帰依 龍照(きえ りゅうしょう)

母が亡くなつて数年たちますが、今も遺骨をお寺の納骨堂に預けています。健在の父や私たち兄弟は、早くお墓を造りたいと考えていますが、身内に年男・年女がいたら、その年にお墓は造れないと言われ、今に至っています。また、厄年だけでなく、後厄の年も造れないとか。生まれ年は、身内のどのあたりまで気にかけるべきですか。家族が多いと、いつまでもお墓を造れないのではないかと、とも思います。

A (匿名希望さん) このご質問は、まさに私の腕の見せ所ですね(笑)。お任せください。一緒に解決していきましょう。お墓を造る時期は、地域や家庭によつてさまざまですが、次の5つが代表的な考え方のようです。

- ① 亡くなられてすぐ。
- ② 四十九日までに。
- ③ 一周忌が終わつてから。
- ④ 三回忌が終わつてから。
- ⑤ 十三回忌、あるいは三十三回忌が終わつてから。

本来、お墓はいつ造られても大丈夫です。しかし、沖縄のしきたりに詳しい先輩方のお話では、どこかにカリウンチケー(仮案内)で納骨している場合は、三回忌が終わつてから造るのが一般的だということです。

もし三回忌の後では遅すぎると考へるなら、一周忌や四十九日の後に、早すぎると考へるならば、十三回忌や三十三回忌の後にお墓を造ればいいようです。

今回のご相談は、お葬式から数年が経過していることなので、お父さまやご兄弟と相談して決めれば差し支えないと思います。

生まれ年を避ける方法

また、「どのあたりまでの身内の生まれ年を気にかけるべき?」とのことです

が、まず、生まれ年と厄年についての考え方を説明します。沖縄では、自分の生まれ年の干支と同じ干支の年は、厄年とされています。お墓を造る時期は、地域や家庭によつてさまざまですが、次の5つが代表的な考え方のようです。

生まれ年を考慮するべき「身内」の範囲は、現代の一般常識からすれば、三親等くらいまでに当たる方がかと思われます。ざつと説明すると、ご自分から見た「曾祖父母・祖父母・父母・兄弟姉妹・夫・子・甥姪・孫・曾孫」あたりまでとなり、厳密に言へば、兄弟姉妹の配偶者や甥姪の配偶者なども三親等に含まれます。これまで大変な人數になるの

く、その前後のメーヤク(前厄)・ナカヤク(中厄・本厄)・クシヤク(後厄)を避けるとなれば、一人につき3年はお墓が造れない期間となります。まさに「家族が多いといつまでたつてもお墓を造れない」ことになつてしまりますね。

でも、ご安心ください。沖縄には、このような考え方を尊重した上で、次のような解決策があります。

① 本来の生まれ年は、還暦のみと考へ、数え61歳の方以外は生まれ年と見なさない。60年に一度しか巡つてこない「十干十二支」で生まれ年を見る方法です。今年の十干は「丙」、十二支は「申」で、「丙申(ひのえさる)」。

② 代表者である施主を決めて、施主の生まれ年のみを避けお墓を造る。

